

地域林政対談 イン大分

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第十八弾は、佐伯市の田中利明市長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



傾山 (撮影:市ノ瀬 孝氏)



藤河内溪谷

尖峰と溪谷が育む森と水、いのちの営みを次世代へ「佐伯市長」

平成29年6月14日、「祖母・傾・大崩」がユネスコエコパーク（以下、「エコパーク」という。）に登録されたところ。エコパークの活性化に向けて、これからどういう対応していくのか検討している。市としても平成30年度から担当部署を新設して、市をあげて対応していきたいと考えているので、国・県等の関係者の皆さまにも多方面からご支援いただきたいと考えている。ユネスコエコパークに登録されているキューバの「ラス・テラス国立公園」にも視察に行ったところ。コアとなる部分の環境保全とその周辺の観光産業化の両立を先進的に実現しており、非常に参考になった。本市のエコパークにおいても、国有林を含めた森林の保全やそれらを活かした観光産業の活性化の共存を図っていきたい。



田中利明 佐伯市長

佐伯市では、佐伯広域森林組合を中心とした佐伯型循環林業を推進している。佐伯広域森林組合は、約200名を雇用しており、機械化が進み若年齢の林業従事者も増えているところ。佐伯型循環林業では、コンテナ苗を活用して、50年周期で伐ったら必ず植栽している。木材の加工販売から苗木生産までを佐伯広域森林組合の宇目工場で一貫して実施しており、年間約8万5千本ほどのコンテナ苗を生産しているが、年間70万本ほど必要な状況であり、ほと

んどを宮崎県から調達している。1本当たり20円の補助をして支援しているところだが、佐伯産苗木の生産体制を整備・強化したいと考えている。また、平成28年4月から市内の木質バイオマス発電所でヤシガラを活用しているが、将来的には佐伯市産の間伐材チップを燃料に発電したいと考えている。森林の利活用という観点から前向きに検討したいと考えている。

そのほか、佐伯市木材利用促進事業として、市単独の補助を平成20年度から実施しているところ。市産材を使用した新増築に対して40万円、またリフォームする際は20万円を補助しており、予算規模としては約4千万円を計上している。年間約100件ほどの申請があるところ。今後も佐伯市産材の利活用循環に活かしていきたい。



祖母山山頂から傾山方面の展望

(エコパークの活性化)

佐伯市長 エコパークの活性化のため、国として具体的にどのような政策が取れるのか、また活用できる補助事業があるのか、ご教示いただきたい。

局長 補助事業に関しては、森林・山村の多面的機能の発揮を図るため、地域の協議会が実施する森林の保全管理等を支援する交付金がある。こうした活用できるものを、大分県と連携して検討し、複合的に活用してもらいたい。国有林としては、当該地域を「祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域」に指定していることから、管理者としてシカ被害等から貴重な森林生態系を保全するなど、しっかりと取り組んでいきたい。また、要望があれば国有林を市に貸し付けたうえで歩道の整備等を行っていたりなどの対応も可能である。

佐伯市長 エコパークは、今後5年間である程度成果を出したいと考えている。エコパークにちなんだ物産品を作るなど、地域をあげて観光産業としても発展させ、地域住民も満足するような実績をあげられるよう取り組みを進めていきたい。また、地元の日本文理大学とも連携し、エコパークの学術的な価値も周知できるように取り組んでいきたいと考えている。国・県等には市と連携した取組の推進を検討いただきたい。

署長 エコパークの管理計画と行動計画に基づき、まずは国・県・市、また地域住民それぞれが何をすべきか、どう実績を積み上げていくか整理していく必要がある。国有林としても、コアの部分である国有林のモニタリング調査をしっかりと実施していくほか、歩道整備等の要望があれば市と連携してしっかりと対応していきたい。そのほか、振興局と連携し、インバウンドも視野に入れた観光客の確保等を検討する必要があるのではないかと。

局長 森林生態系保護地域に指定されていることから、モニタリング調査を進めており、そういった森林資源の状況把握等という面からも支援ができると考えている。

佐伯市副市長 国有林のレクリエーションの森について、重点地域では利用者を50%増加するという目標を持って取り組まれているということであるが、

申請すれば新規登録できるのか。

署長 全体として廃止を含めた見直しを行っているところであるが、地元で協議会を作ってもらうなど、積極的に進めていただければ可能性はある。

局長 国有林の予算は限られているものの、積極的に頑張っている地域には多言語看板の設置、情報発信ツールの整備等、重点的に支援をしているところ。そのほか、地域によっては協議会が主体となり協力を徴収して管理をし、整備を行うといった例もあつた。そういった要望があれば、森林管理署に相談していただきたい。

(土場の整備支援)

佐伯市長 佐伯広域森林組合の宇目工場では、工場事務所と土場が離れており、かつ点在している状況であり生産効率が悪いという問題がある。できれば工場、事務所と土場を近接して新たに整備したいと考えている。建物や機械設備と一体的な補助制度はあるということだが、土場の整備のみに対する補助はないと思うので、林野庁には支援をお願いしたい。
局長 土場の規模等にもよると思うが、例えば合板・製材・集成材国際競争力強化対策など活用できる補助事業もあることから、大分県とよく相談して検討してもらいたい。

大分県林務管理課長 そういった要望があることは把握していることから、今後また相談していただきたい。



祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域

(シカ被害対策)

佐伯市長 市内のシカの捕獲頭数は増加し、頭数としては減少傾向にあると認識しているが、未だ被害は減っていない状況である。国有林内での捕獲は土日など休日に限定されているので、平日でも捕獲できると入林の規制緩和をお願いしたい。

署長 狩猟のための入林については、休日限定している訳ではなく、平日も可能である。なお、国有林野内では職員が調査等を実施しているほか、請負事業者の事業等も実施していることから、そういったエリアについては猟銃による捕獲を制限する必要があり、土平日も含めて立ち入り禁止としているところである。

局長 安全が最優先であるが、国有林としても、入林届を狩猟期間内は一括で受け付けたり、電子化するなど少しでも簡素な手続きとなるよう取り組んできたところ。今後もシカ対策に連携して取り組んでいきたい。

(災害対策)

佐伯市長 市内には鉄肥杉の大径材も多数存在しているが、スギ・ヒノキは根が浅く、以前と比べて山の保水力が低下しており、大雨が降れば山崩れが起きて流木化してしまう恐れがあると危惧している。針広混交林化を進めても、成林するまでには何十年という期間を要する。

局長 九州北部豪雨による流木発生メカニズムを検証したが、異常な大雨で立木の根より深い部分から崩れていたことが分かっている。スギ・ヒノキといった樹種や針葉樹・広葉樹などの林相に関係なく、異常な大雨で山が崩れたことで流木化したものである。今後、発生部では適切な森林整備を行い、下流部では流木補足式ダムを設置するなど、流木対策も併せた治山対策をしつかりと進めていく。

佐伯市長 海の恵みは山の恵みというように、生態系全体を考えていかなければならないと思っている。一過性ではなく、長期的な視点で農林水産業全体を活性化する必要もある。その中で林業の果たす役割も大きいと考えている。

大分県林務管理課長 県としても、大分県森林環境税による流木対策に対する補助制度があることから活用していただきたい。

(事業者の育成に向けて)

局長 産業全体としてもそうだが、林業事業者の人手不足は深刻である。若い林業従事者も減少しており、九州全体として支援が必要である。その対策のため、造林事業のなかでも最も過酷と言われる下刈の省力化は急務であると考えている。若い人は、下刈を経験すると辞めてしまうという話をよく聞く。

特定母樹に指定されたスギ熊本203号は、4年で樹高6mを超える。検証段階ではあるが積極的に活用を検討し、下刈の省力化に向けて切り替えていく必要があるのではないかと考えている。

また、九州においては北米に国産の2×4を輸出することも不可能ではないと考えている。そのためには、持続的に仕事を回せる事業者の確保と、再造林の確保が必要である。今、九州の林業は分岐点である。

平成31年度からスタートする新たな森林管理システムのスキームのもと、意欲と能力のある林業経営者を九州全体で育てていきたい。

大分県林務管理課長 林業労働力の確保という点では、大分県では伐採業者は増加しているが造林業者が減少している状況。佐伯市で実施しているような、伐採と植栽をセットとした一貫作業システムを県内に拡大させていきたい。

南部振興局総括課長補佐 佐伯広域森林組合では、来年度からドローンを活用して苗木やシカネットの資材を運搬する試験を実施する予定である。

佐伯市長 シニア世代で働きたい人は多い。そういった労働力を活用できないか。

大分県林務管理課長 県でも議論になっているところ。シニア世代も含め研修受講に対する助成や、エアコンスーツなどの作業環境の改善について支援できないか検討している。



九州育種場で検定中の
エリートツリー候補木

地域林政対談 イン 大分
平成30年2月16日(金)13:00~15:00
佐伯市役所会議室

出席者(敬称略)

○佐伯市

田中 利明 市長
阿部 邦和 副市長
五十川 和重 農林水産部長
今山 勝博 宇目振興局長

○大分県

樋口 昭 林務管理課長
山本 公一郎 南部振興局農山漁村振興部課長補佐(総括)
中野 賢路 南部振興局農林基盤部長

○林野庁九州森林管理局

原田 隆行 九州森林管理局長
川畑 宏二 大分森林管理署長
勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

